



日本在留外国人の 日本での就労意欲・特定技能への意識に関する調査

株式会社マイナビグローバル

調査概要

- 調査対象：日本に在留する外国人
- 調査期間：2024年1月18日～2024年2月1日
- 依頼方法：マイナビグローバルの登録者、提携する日本語学校・専門学校等の留学生、日本での就職を希望するFacebookグループ・コミュニティへの案内
- 調査方法：インターネット調査
- 有効回答数：582
- 調査機関：株式会社マイナビグローバル

※調査結果は、端数四捨五入の都合により合計が100%にならない場合があります。

回答者属性

国籍	
ベトナム	277
インドネシア	108
ネパール	65
中国	45
ミャンマー	33
その他	54

在留資格	
留学	208
特定技能	171
技術・人文知識・国際業務	84
技能実習	58
特定活動	35
その他	26

特定技能の分野	
介護	44
外食	39
飲食料品製造	47
その他	41

■ 日本での就労意欲

現在の在留資格が切れた後も日本で働きたいと回答した人は91.0%であった。前回調査の2022年よりも就労意欲がある人は全体的に5.8pt減少し、外国人材の日本での就労意欲はやや低下している。日本での就職に人気が低下していると言われているなか、それを裏付ける結果となった。【P6】

■ 日本で働きたくない理由

日本で働きたくない理由を「円安」と回答した人が38.5%と最も多く、労働環境を理由にあげた人が30.8%と続いた。一方で給料の低さを理由とする人は19.2%であった。この結果から、給料は一定であっても円安により自国通貨に換算した際の収入が減少するため、日本で働き続ける意欲が低下している可能性がある。【P8】

■ 就職先を選ぶ時に重視するポイント

就職先を選ぶ時に重視するポイントは1位給料（69.8%）、2位仕事内容・職種（65.1%）、3位勤務地（51.9%）、4位は僅差で自己成長環境（51.2%）であった。残業の少なさを選ぶ人は12.5%と最も低かった。また、2022年と比較すると「給料」や「人間関係が良い」などの項目で上昇傾向がみられた。「給料」については円安の影響でより高い給料を求める傾向が強まったと推察される。また、特定技能は「人間関係が良い」を重視する割合が他よりも高く、職場環境の人間関係が重要な要素であることが示された。【P9・10】

■ 特定技能2号の認知度

特定技能2号の対象分野の追加については76.8%が知っているという回答。特定技能2号について知っていることとして、家族帯同が可能であること・取得要件の認知度が高く、ともに50.8%であった。特定技能2号で就労したい理由も家族帯同が可能であることの割合が高かったことから、家族と日本で生活したいという願望があることが推察される。【P15・16】

■ 特定技能2号での就労意欲

特定技能2号で働きたいかという質問に対して、63.6%が特定技能2号で働きたいと回答。【P23】

特定技能2号で働きたい理由は「永住できる可能性があること（44.0%）」が最も多く、次いで家族帯同が可能なこと（41.8%）や職種（41.3%）、在留期限（40.7%）、キャリアアップ（40.7%）と続いた。【P25】

これらの結果は、2022年の当社の調査で特定技能制度への改善要望として家族帯同が可能となること・在留期限・在留期間が永住権の申請にカウントされることをあげる割合が高かったことと一致する。これらは2号では解消されるため、2号の制度内容は外国人材のニーズに対応していることが示唆される。

■ ベトナム人材の変化：日本での就労意欲が低下

2022年の調査と比較し、ベトナム人材は日本での就労意欲が12.1pt減少、特定技能1号での就労意欲は15.7pt減少し、特定技能の認知度も7.1pt減少した。ベトナム人材は日本での就労意欲が低下し、特定技能への関心度合も低下していることが示された。【P30】

■ インドネシア・ミャンマー人材の傾向：日本での就労意欲が高く、人間関係を重視する傾向

日本での就労意欲はインドネシア人材は94.4%、ミャンマー人材は97.0%と高水準であった。また、この2カ国は特定技能の認知度も高く（インドネシア：97.8%、ミャンマー95.2%）、出入国在留管理庁が出している特定技能の在留数の増加率が高い上位2カ国と一致する。また、インドネシア・ミャンマー人材は就職先を選ぶ際に人間関係を重視する割合が他よりも高いという特徴もみられた。【P31・32】

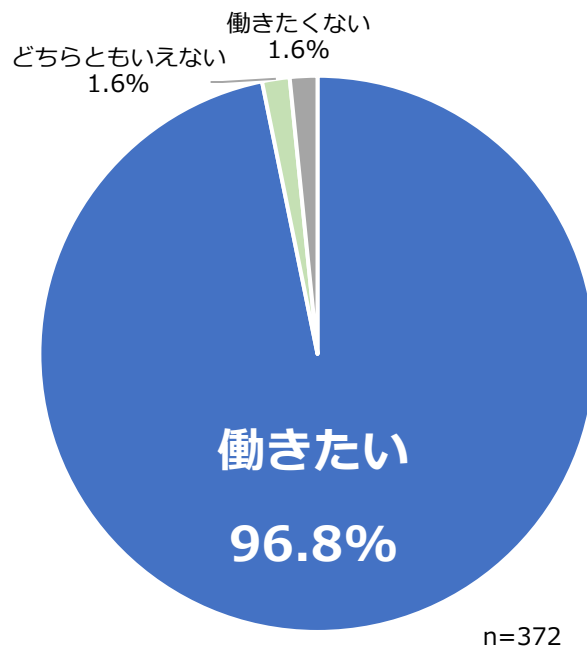


日本での就労意欲

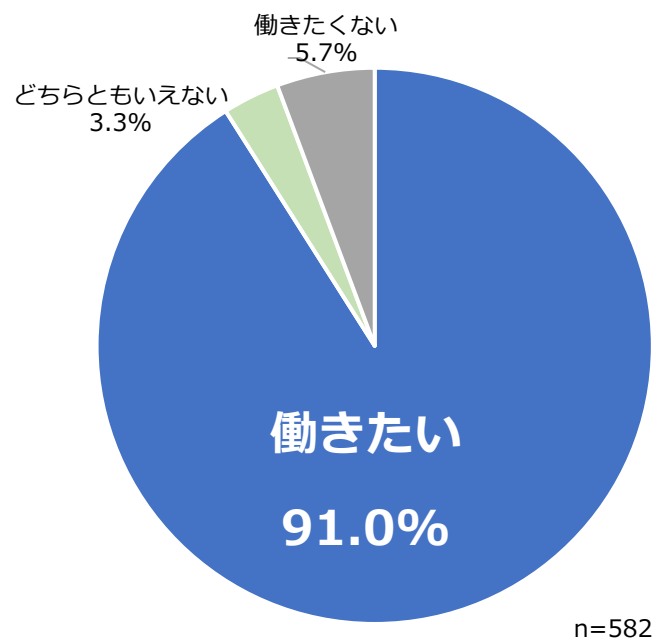
- ◆ 現在の在留資格が切れた後も日本で働きたいと回答した人は91.0%であった。2022年よりも就労意欲がある人は全体的に5.8pt減少し、外国人材の日本での就労意欲はやや低下している。

現在の在留資格が切れた後も、日本で働きたいですか

2022年調査



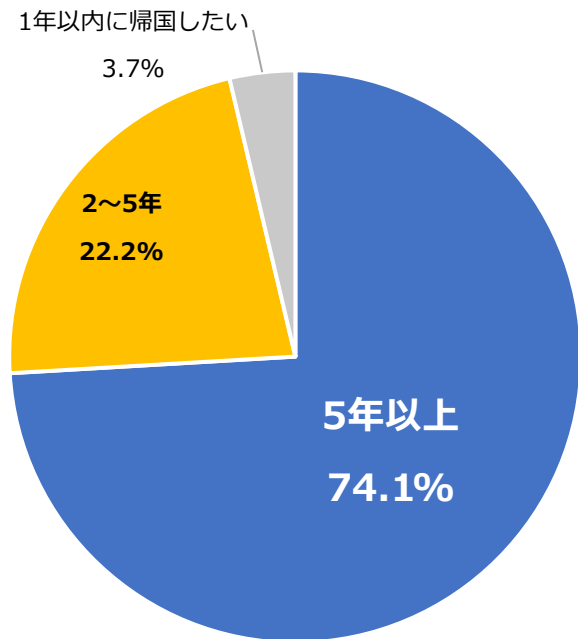
2024年調査



今後何年日本で働きたいか

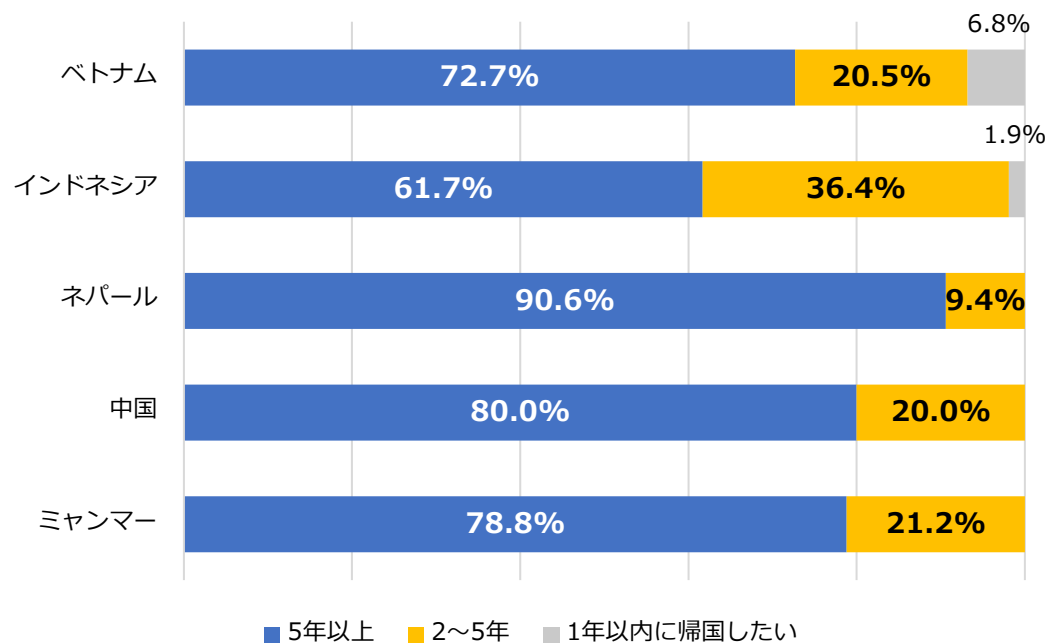
- ◆ 日本での就労意欲がある人の96.3%は長期就労意欲が高く、74.1%が今後5年以上日本で働きたいと回答した。
- ◆ 国籍別ではネパール人材が5年以上の就労を望む人が多く（90.6%）、インドネシア人材は2～5年を希望する人が多かった（36.4%）。

今後どのくらいの期間日本で働きたいですか



※n=567

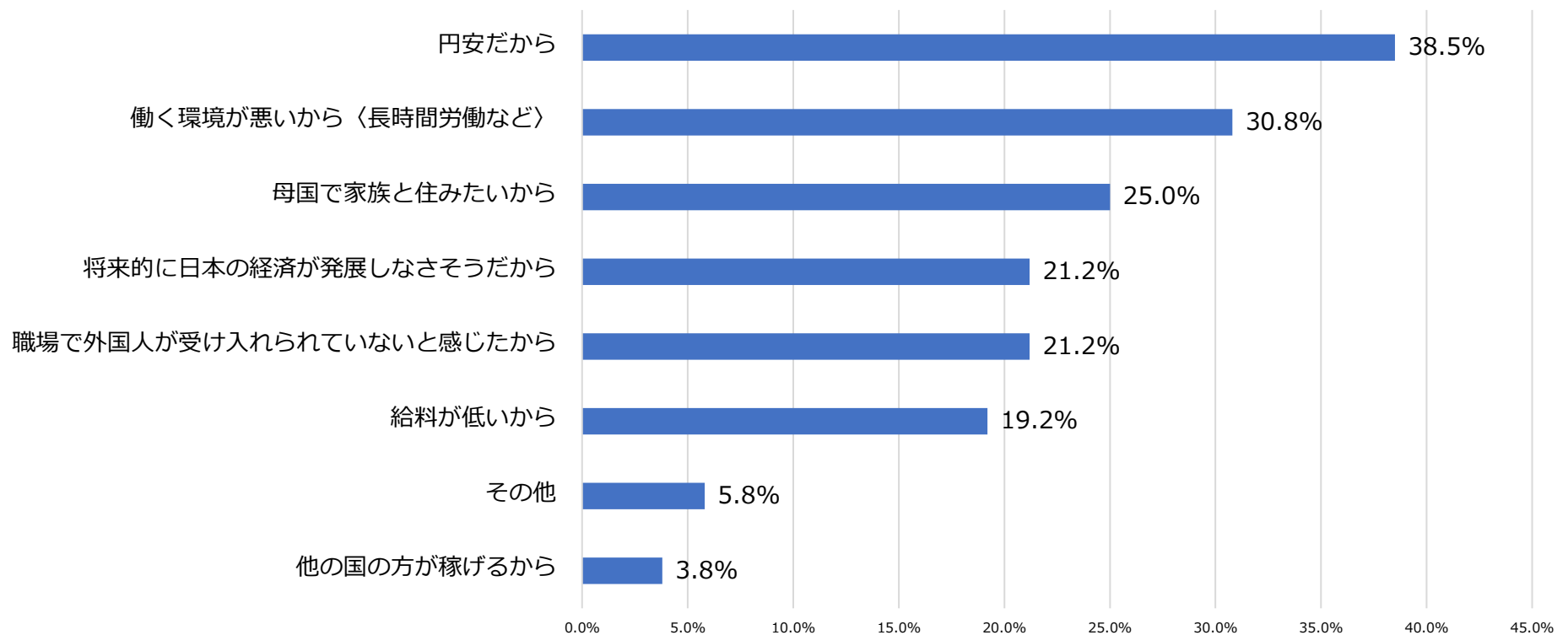
国籍別 今後どのくらいの期間日本で働きたいですか



- ◆ 日本で働きたくない理由を「円安」と回答した人が38.5%と最も多く、労働環境を理由にあげた人が30.8%と続いた。一方で給料の低さを理由とする人は19.2%であった。この結果から、給料は一定であっても円安により自国通貨に換算した際の収入が減少するため、日本で働き続ける意欲が低下している可能性がある。

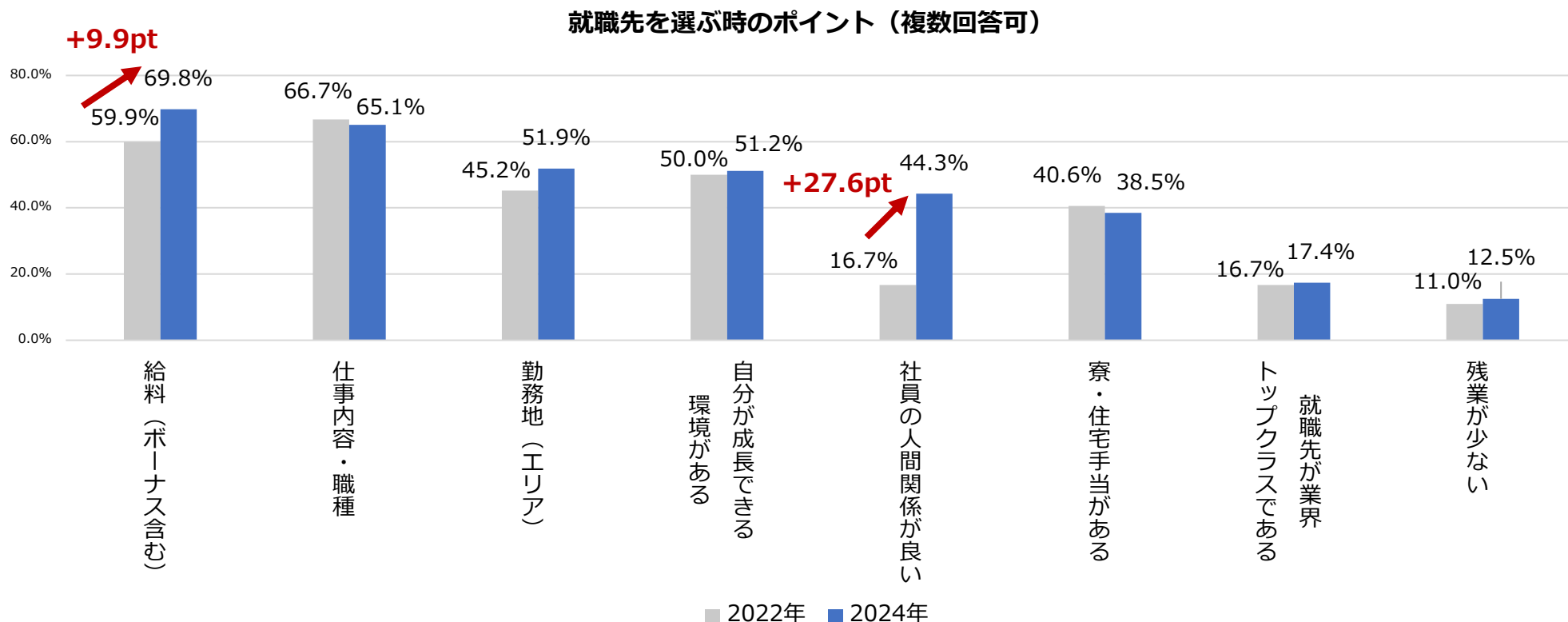
日本で働きたくない理由

※n=52



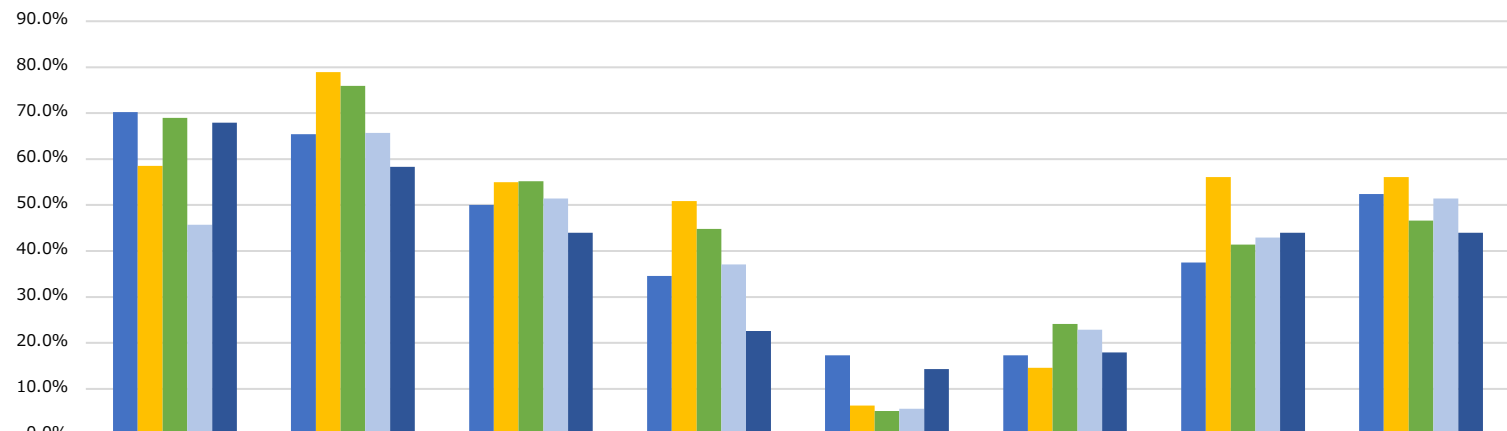
就職先を選ぶ時に重視するポイント

- ◆ 就職先を選ぶ時に重視するポイントは1位 給料（69.8%）、2位 仕事内容・職種（65.1%）、3位 勤務地（51.9%）、4位は僅差で自己成長環境（51.2%）であった。残業の少なさを選ぶ人は12.5%と最も低かった。
- ◆ 2022年の当社の調査結果と比較すると「給料」や「人間関係が良い」などの項目で上昇傾向がみられた。



◆ 特定技能は「人間関係が良い」を重視する割合が他よりも高く、職場環境の人間関係が重要な要素であることが示された

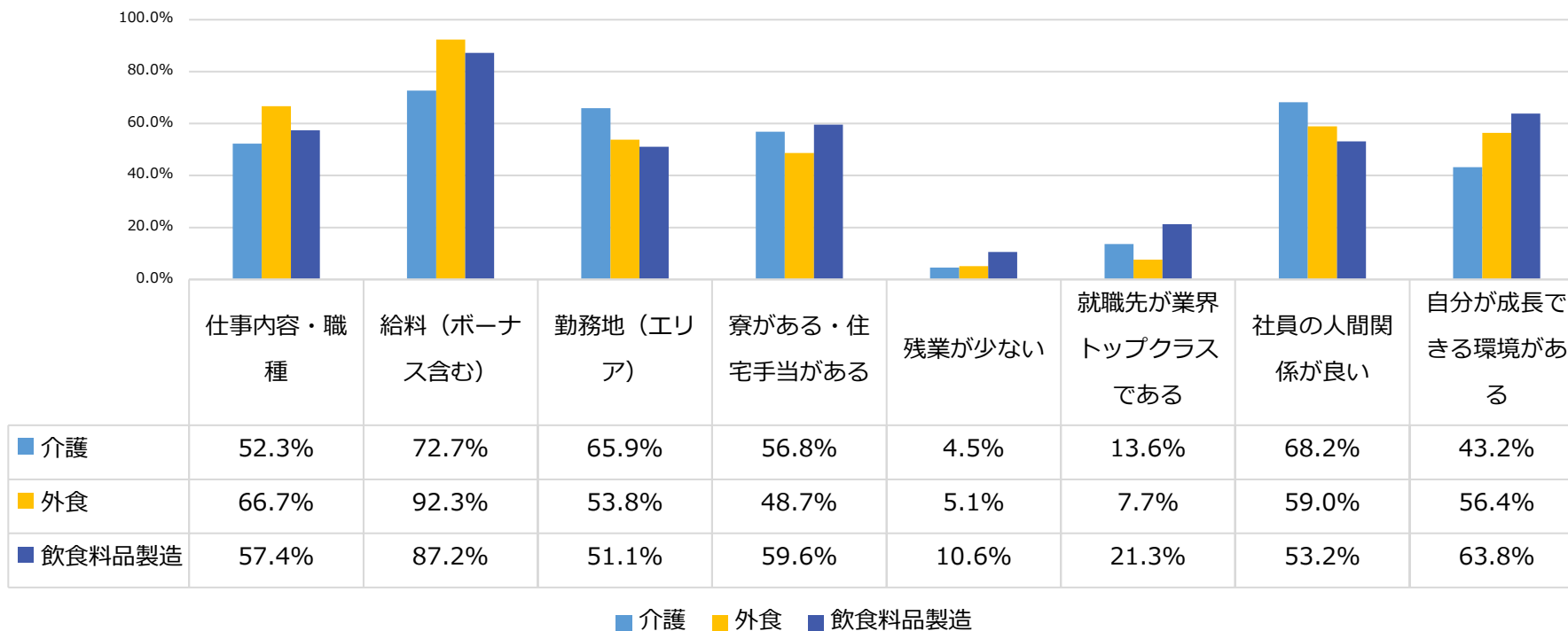
在留資格別 就職先を選ぶ時に重視するポイント



	仕事内容・職種	給料（ボーナス含む）	勤務地（エリア）	寮がある・住宅手当がある	残業が少ない	就職先が業界トップクラスである	社員の人間関係が良い	自分が成長できる環境がある
■ 留学	70.2%	65.4%	50.0%	34.6%	17.3%	17.3%	37.5%	52.4%
■ 特定技能	58.5%	78.9%	55.0%	50.9%	6.4%	14.6%	56.1%	56.1%
■ 技能実習	69.0%	75.9%	55.2%	44.8%	5.2%	24.1%	41.4%	46.6%
■ 特定活動	45.7%	65.7%	51.4%	37.1%	5.7%	22.9%	42.9%	51.4%
■ 技術・人文知識・国際業務	67.9%	58.3%	44.0%	22.6%	14.3%	17.9%	44.0%	44.0%

- ◆ 特定技能は業種に関係なく「給料」を重視しており、とくに外食は重視する傾向にあった。一方で残業が少ないことは業界トップクラスであることは比較的重視されない傾向にある。また、介護は他業種よりも「人間関係」を重要視している。

特定技能の分野別 就職先を選ぶ時に重視するポイント



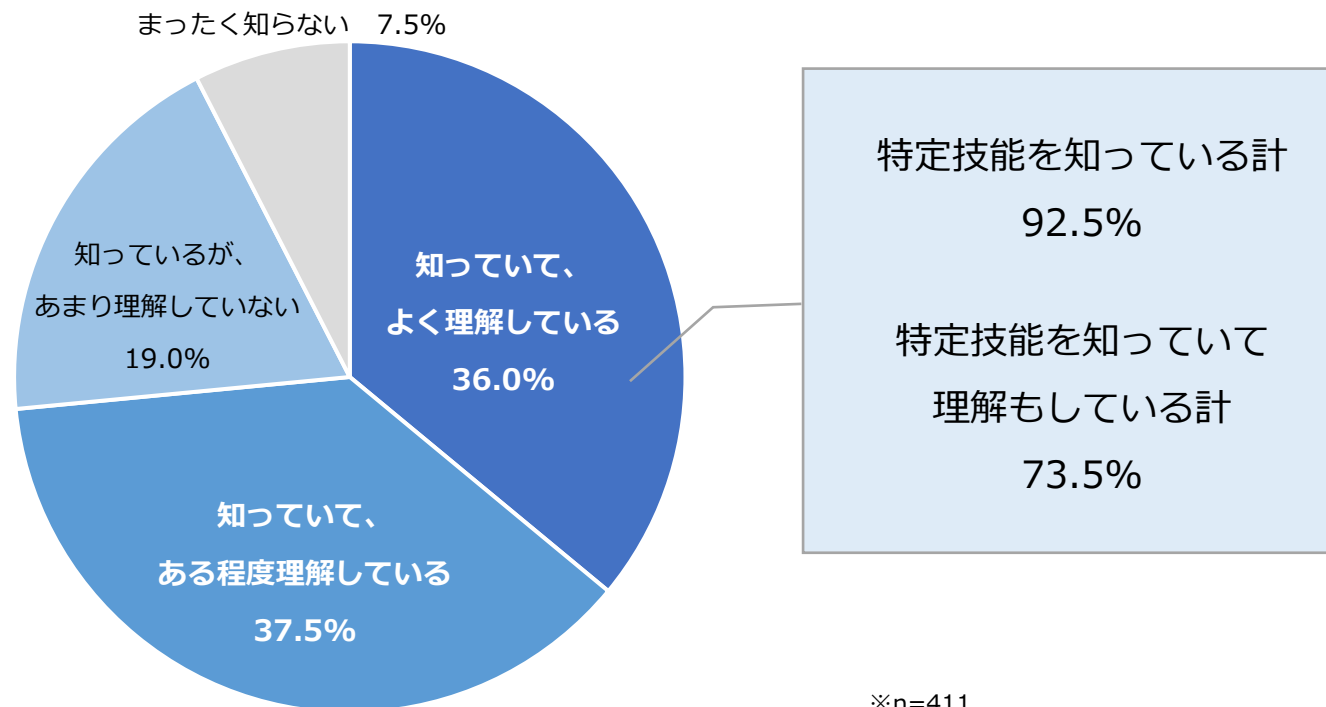
■ 介護 ■ 外食 ■ 飲食料品製造



特定技能の認知度

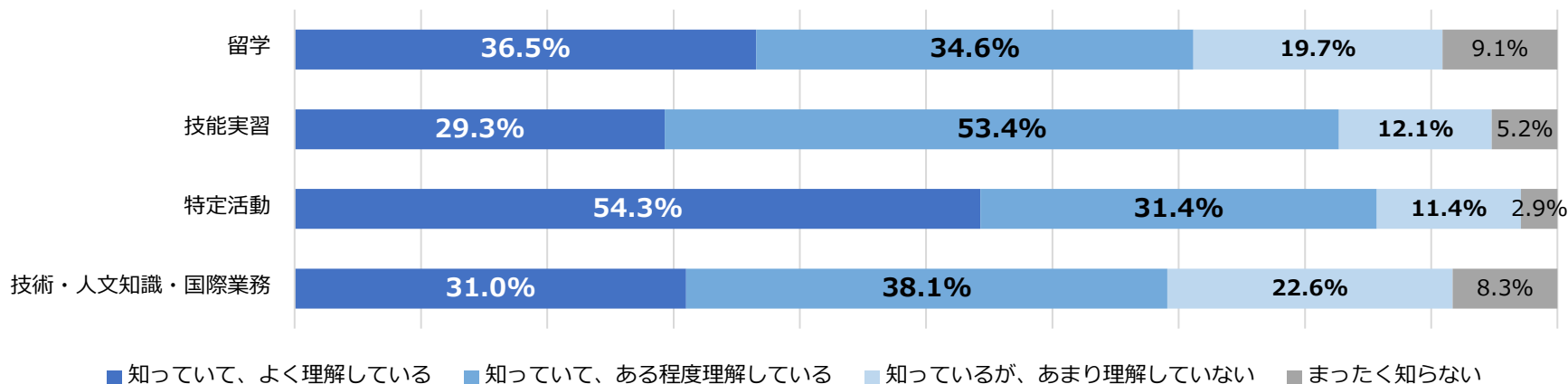
- ◆ 特定技能という在留資格を知っているかと聞いたところ、特定技能を知っていて理解もしているのは73.5%であった。「あまり理解していない」も含めると、特定技能の認知度は92.5%であった。
- ◆ 国籍別ではインドネシア、在留資格別では特定活動において認知度が高い。

「特定技能」という在留資格を知っていますか

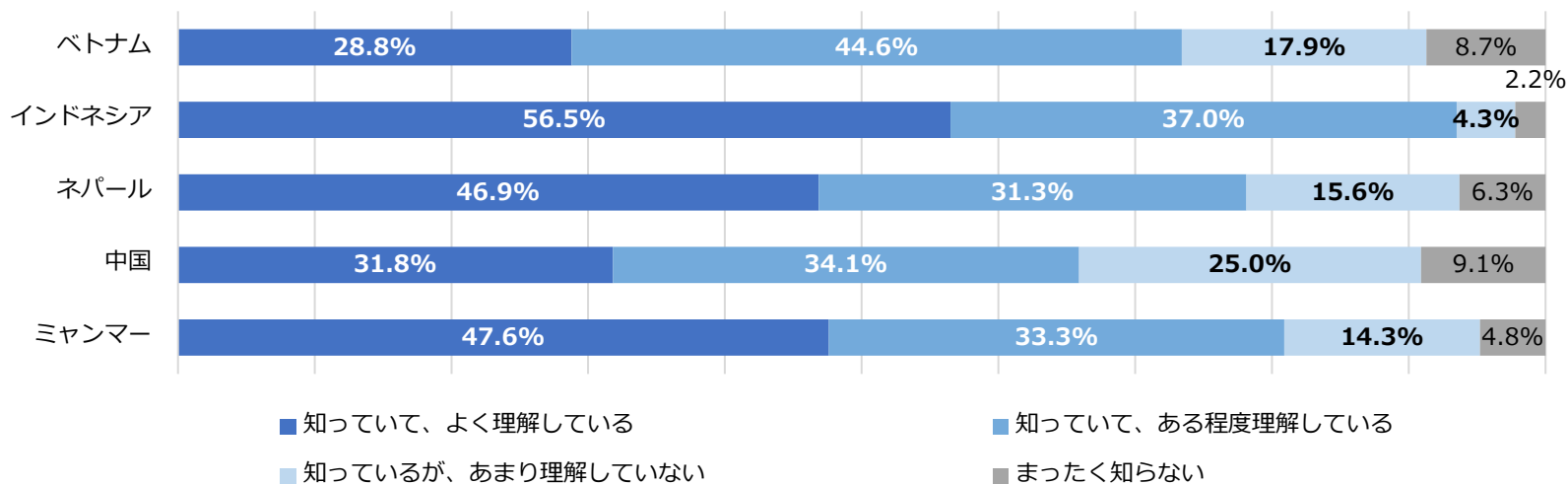


※n=411
※現在特定技能の人以外が回答

在留資格別 特定技能の認知度



国籍別 特定技能の認知度

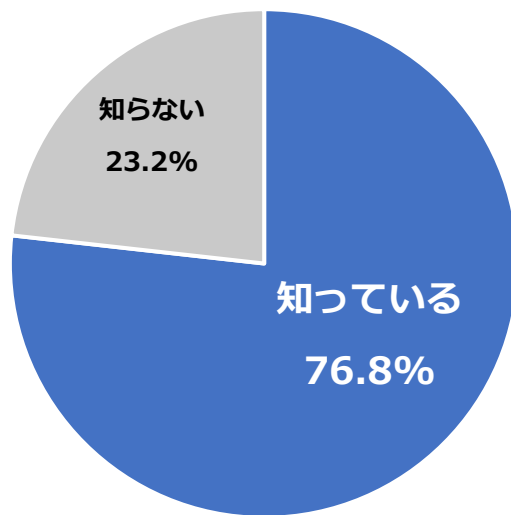


※現在特定技能の人以外が回答

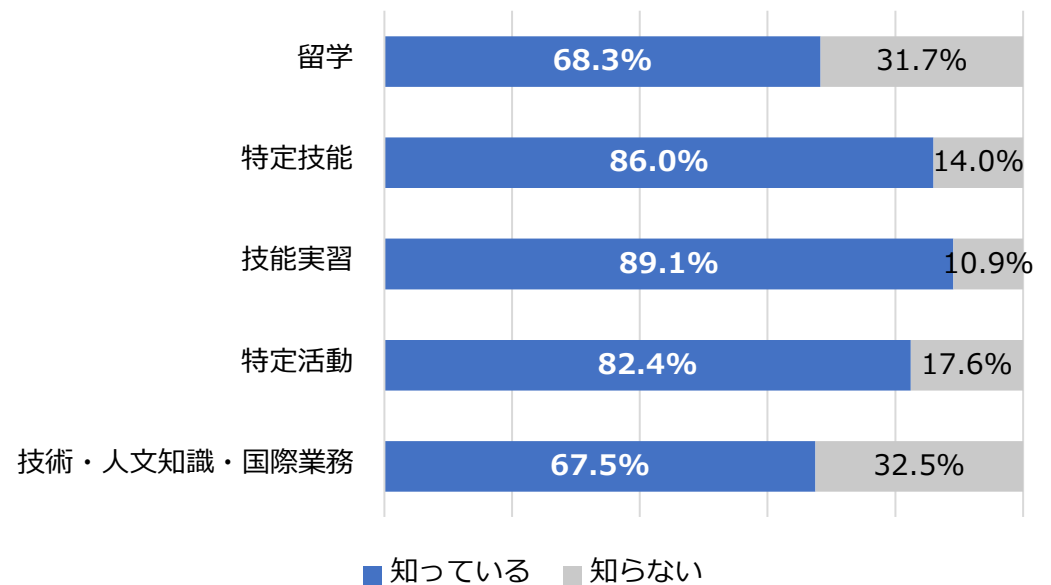
特定技能2号の対象分野が追加されたことの認知度

- ◆ 特定技能2号の対象分野の追加については76.8%が知っているという回答。
- ◆ 在留資格別では技能実習・特定技能・特定活動が知っているという回答した割合が高い。これは特定技能2号で働きたいという回答した割合の高い在留資格とも一致する。

特定技能2号の対象職種が追加されたことを知っていますか n=551



在留資格別 特定技能2号の認知度

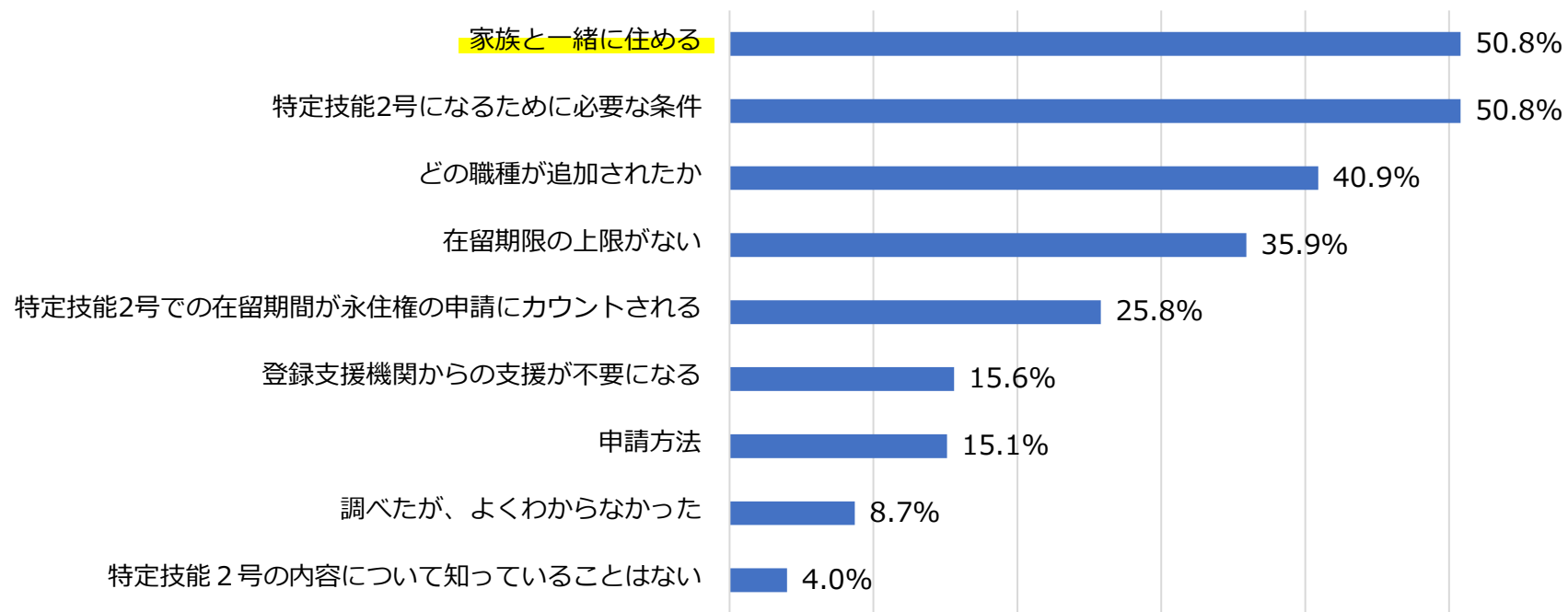


※特定技能をまったく知らない人以外が回答

- ◆ 特定技能2号について知っていることとして、取得要件と家族帯同が可能であることの認知度が高く、ともに50.8%であった。特定技能2号で就労したい理由も家族帯同が可能であることの割合が高かったことから、家族と日本で生活したいという願望があることが推察される。
- ◆ 「調べたがよくわからなかった（8.7%）」「知っていることはない（4.0%）」も一定数みられた。

特定技能2号について知っていることは何ですか（複数回答可）

n=423

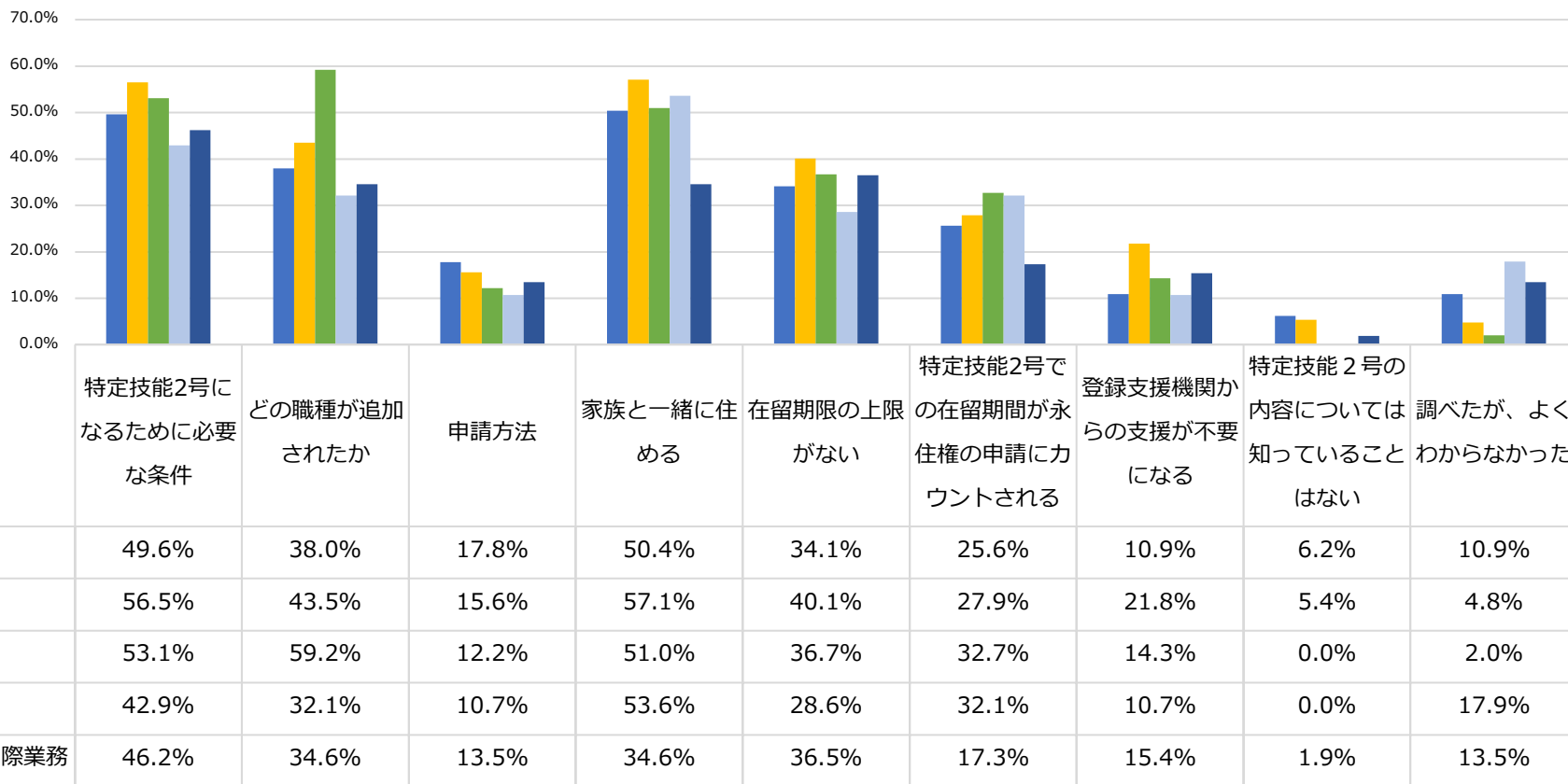


※特定技能2号の分野追加を知っている人のみ回答

※「調べたが、よくわからなかった」「特定技能2号について知ってることはない」は単一選択

◆ 在留資格別では留学・特定技能・技能実習・特定活動は家族帯同が可能であることを知っている人の割合が半数を超えた。

在留資格別 特定技能2号について知っていること



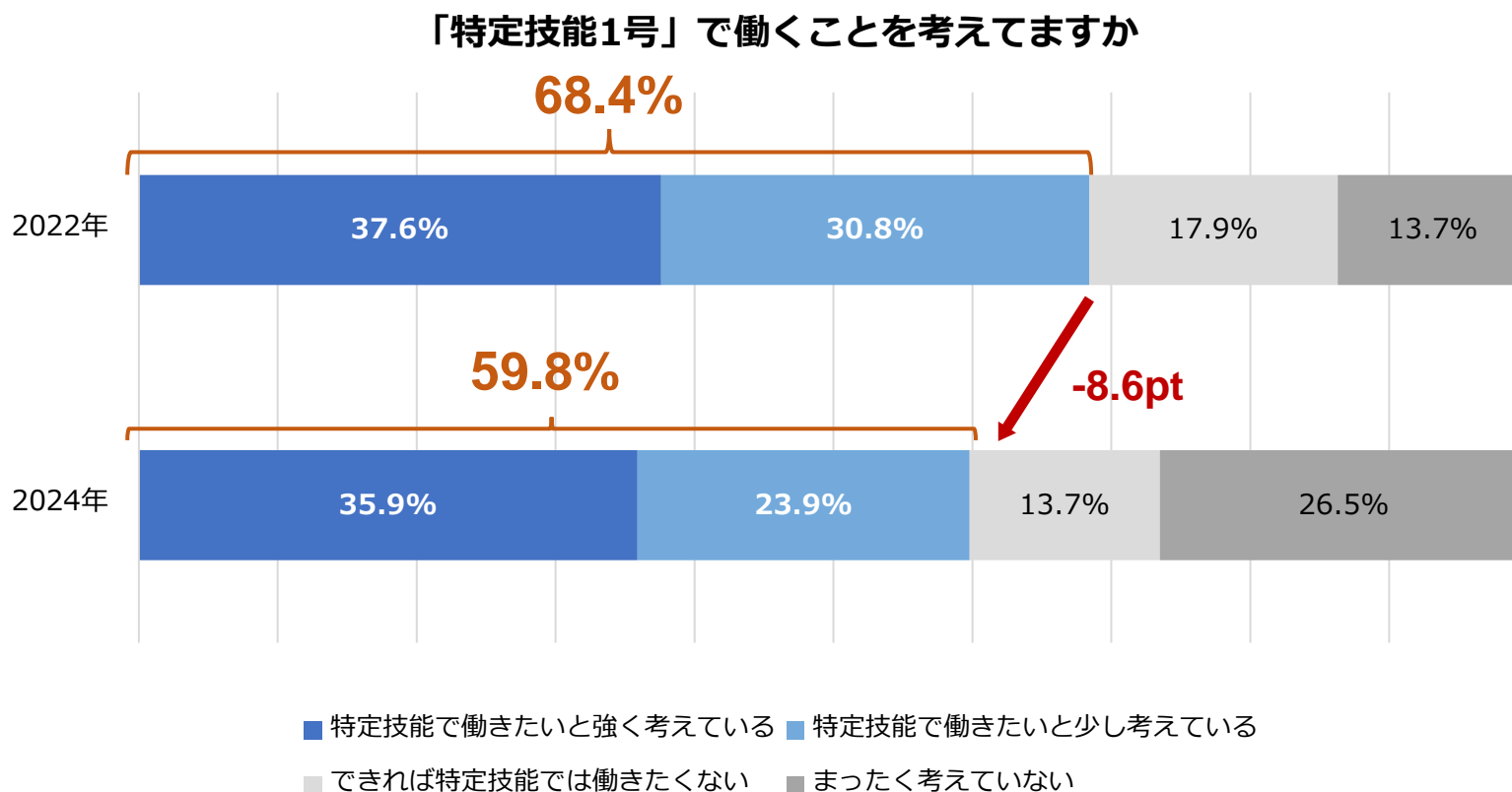
※特定技能2号の分野追加を知っている人のみ回答

※「調べたが、よくわからなかった」「特定技能2号について知ってることはない」は単一選択



特定技能での就労意欲

- ◆ 特定技能1号で働きたいと考えている人は59.8%で、特定技能1号での就労意欲のある人は2022年の調査よりも8.6pt減少した。



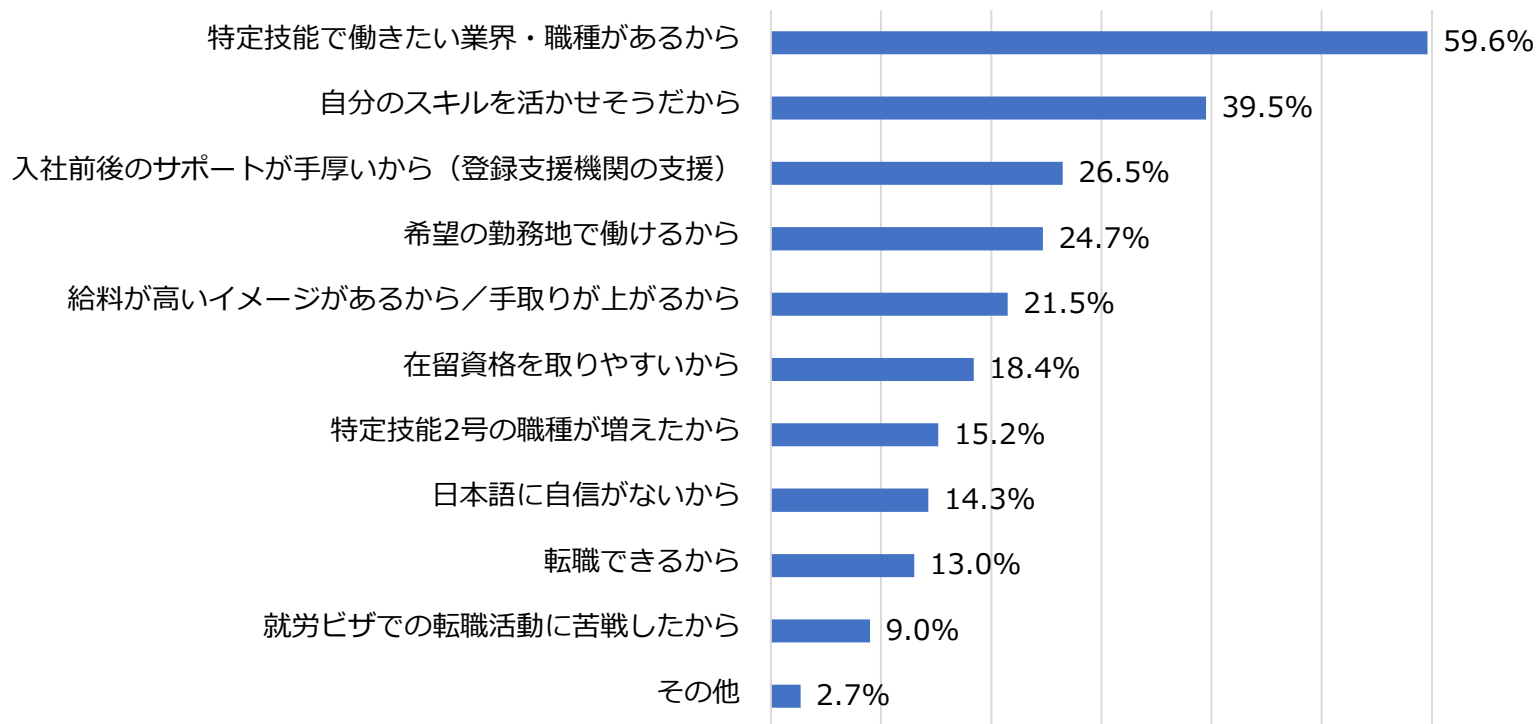
※n=373

※現在特定技能の人・帰国予定者等以外が回答

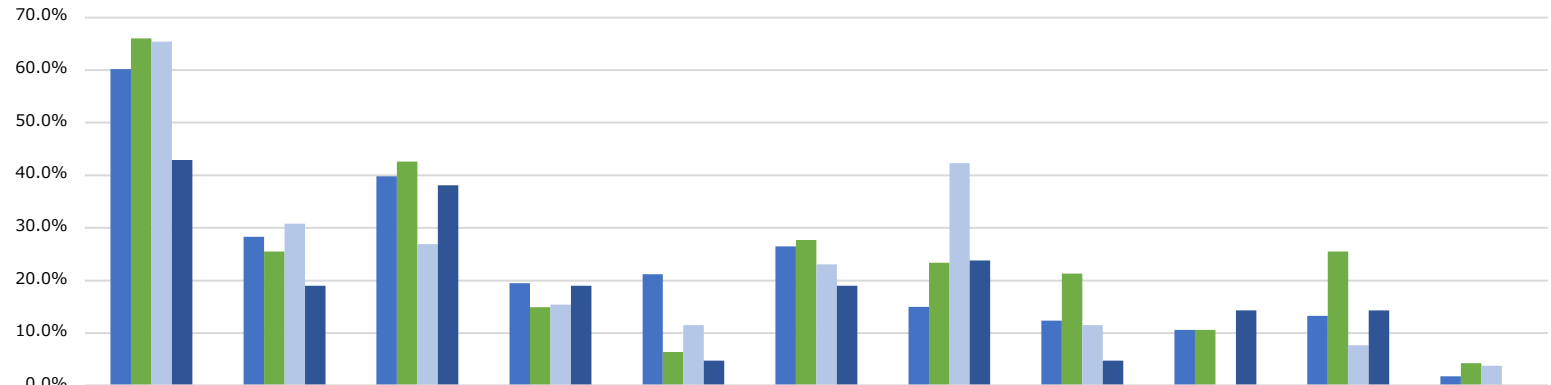
- ◆ 特定技能1号で働きたい理由としては「働きたい業界・職種があるから」が最も多く、2位の「自分のスキルを活かせそうだから」と大きく差が開いた。
- ◆ 技能実習は「自分のスキルを活かせるから（42.6%）」「転職できるから（21.3%）」「特定技能2号の職種が増えたから（25.5%）」の割合が他よりも高い。技能実習から特定技能1号、特定技能2号へとステップアップするキャリアのイメージがついたからではないかと推察される。

特定技能1号で働きたい理由（複数回答可）

n=223



在留資格別 特定技能1号で働きたい理由

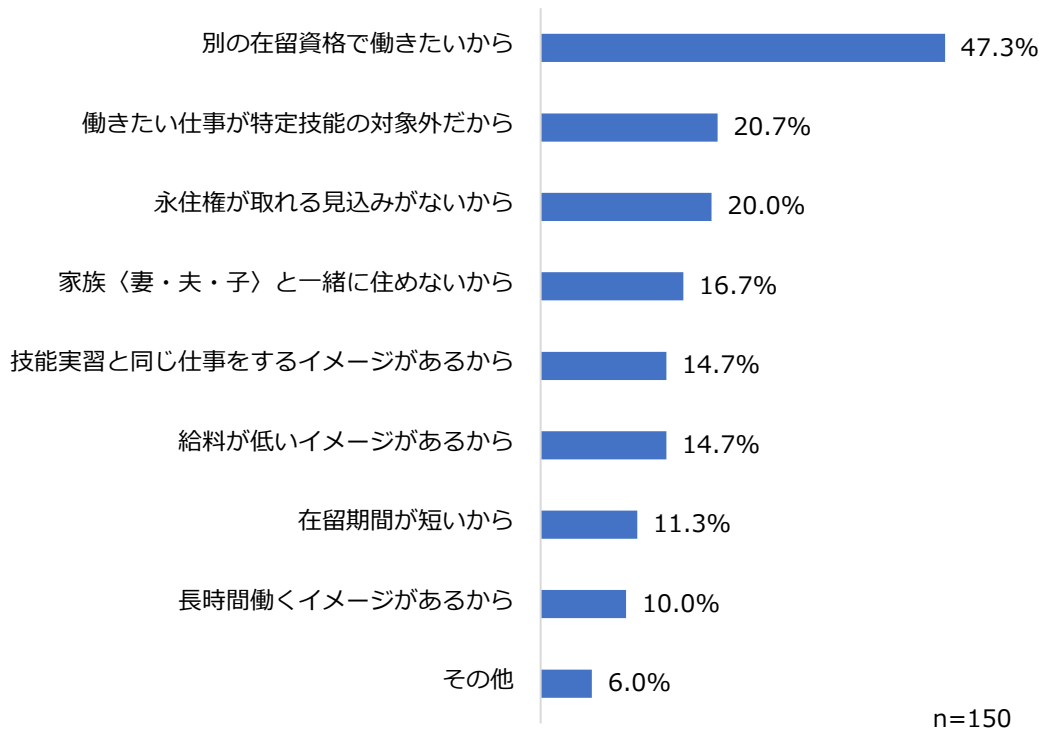


	特定技能で働きたい業界・職種があるから	入社前後のサポートが手厚いから(登録支援機関の支援)	自分のスキルを活かせそうだから	在留資格を取りやすいから	日本語に自信がないから	希望の勤務地で働けるから	給料が高いイメージがあるから/手取りが上がるから	転職できるから	就労ビザでの転職活動に苦戦したから	特定技能2号の職種が増えたから	その他
■ 留学	60.2%	28.3%	39.8%	19.5%	21.2%	26.5%	15.0%	12.4%	10.6%	13.3%	1.8%
■ 技能実習	66.0%	25.5%	42.6%	14.9%	6.4%	27.7%	23.4%	21.3%	10.6%	25.5%	4.3%
■ 特定活動	65.4%	30.8%	26.9%	15.4%	11.5%	23.1%	42.3%	11.5%	0.0%	7.7%	3.8%
■ 技術・人文知識・国際業務	42.9%	19.0%	38.1%	19.0%	4.8%	19.0%	23.8%	4.8%	14.3%	14.3%	0.0%

特定技能1号で働きたくない理由

- ◆ 特定技能1号で働きたくない理由は「別の在留資格で働きたいから」が最多。2022年の調査結果と比較すると「別の在留資格で働きたいから」が10.4pt、「家族と一緒に住めないから」が18.4pt減少した。特定技能2号では家族帯同が可能である。2号の対象分野が追加されたことで、1号から2号へのキャリアアップや家族で共同生活が可能になったことが影響したのではないかとと思われる。

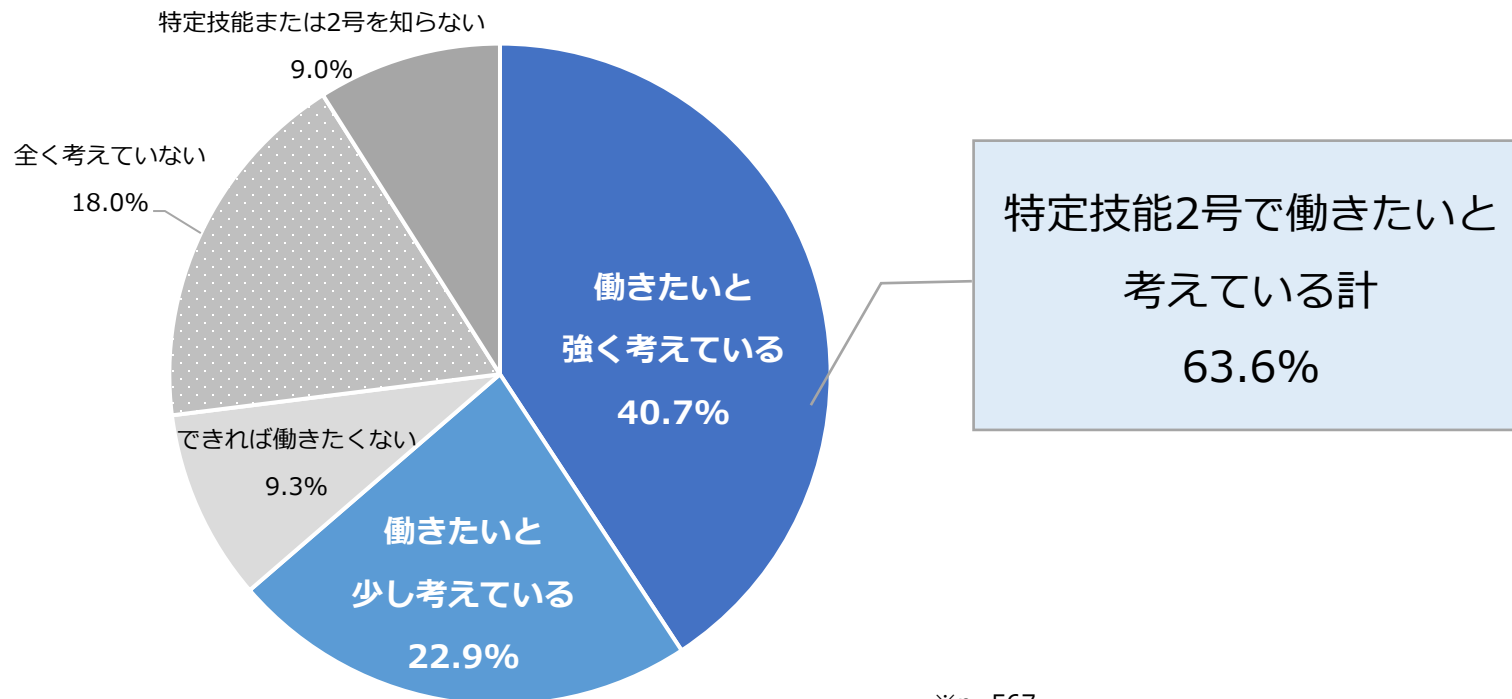
特定技能1号で働きたくない理由



	2022年	2024年	増減
働きたい仕事が特定技能の対象外だから	23.4%	20.7%	-2.7pt
別の在留資格で働きたいから	57.7%	47.3%	-10.4pt
給料が低いイメージがあるから	9.9%	14.7%	+4.8pt
長時間働くイメージがあるから	9.0%	10.0%	+1.0pt
技能実習と同じ仕事をするイメージがあるから	8.1%	14.7%	+6.6pt
在留期間が短いから	18.9%	11.3%	-7.6pt
家族〈妻・夫・子〉と一緒に住めないから	35.1%	16.7%	-18.4pt
永住権が取れる見込みがないから	23.4%	20.0%	-3.4pt
その他	5.4%	6.0%	+0.6pt

- ◆ 特定技能2号で働きたいかという質問に対して、63.6%が特定技能2号で働きたいと回答（帰国予定者を除く）
- ◆ 現在の在留資格が特定技能の人は80.7%が2号で働きたいと回答。国籍別では2号で働きたいと回答した人はインドネシアの80.4%が最も高く、次いでミャンマーとベトナムが69.7%と続いた。

「特定技能2号」で働くことを考えてますか

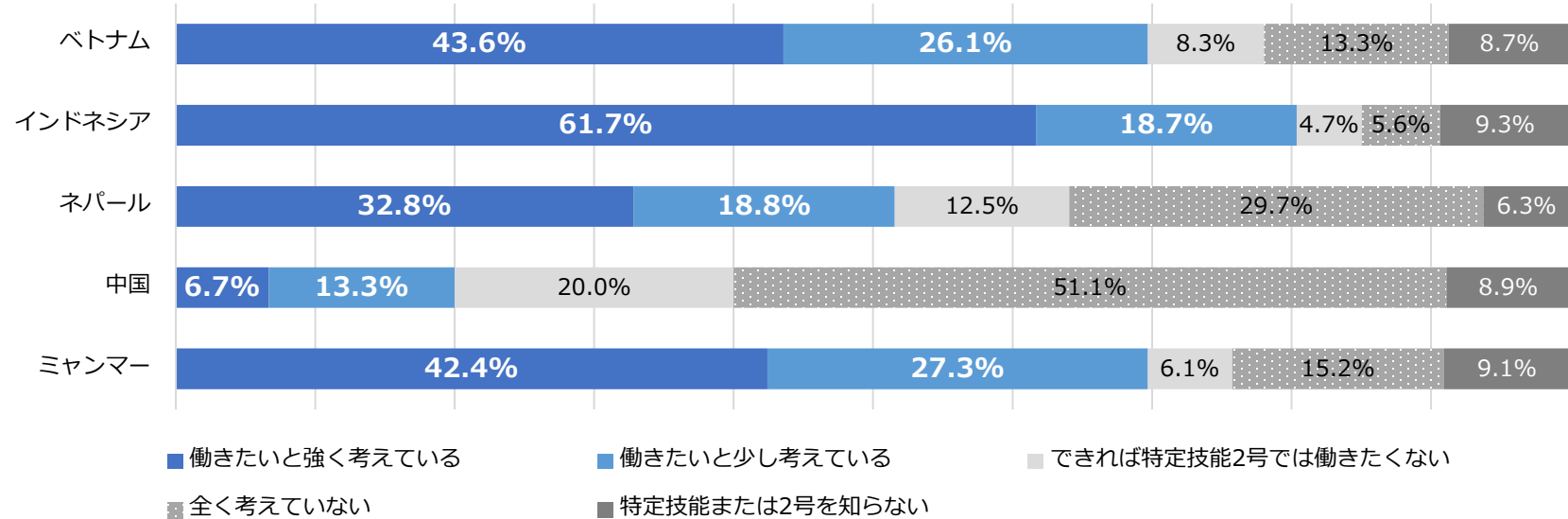


※n=567

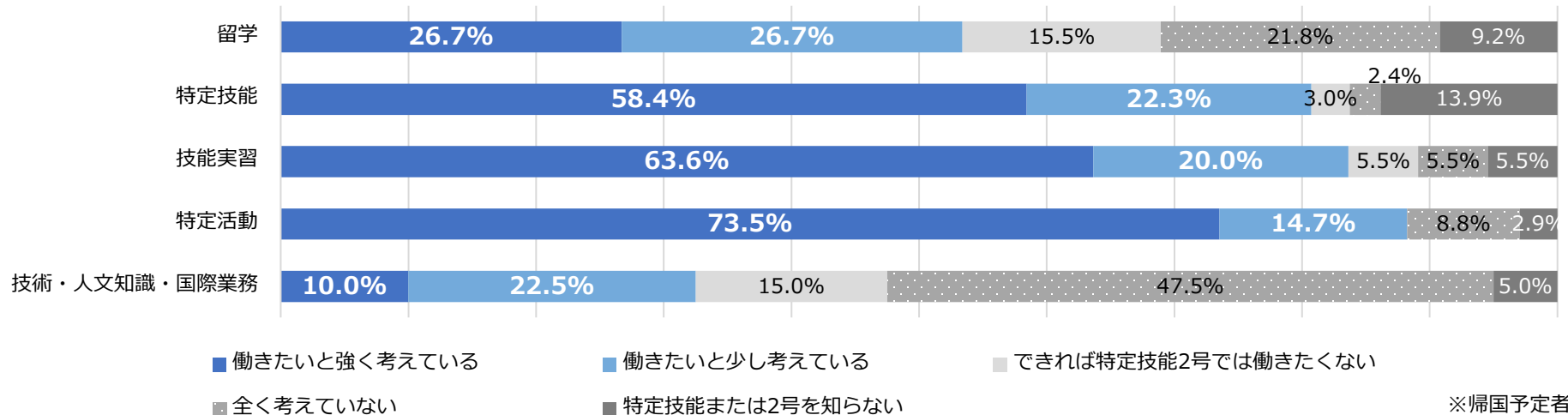
※帰国予定者以外が回答

特定技能2号での就労意欲

国籍別 特定技能2号での就労意欲



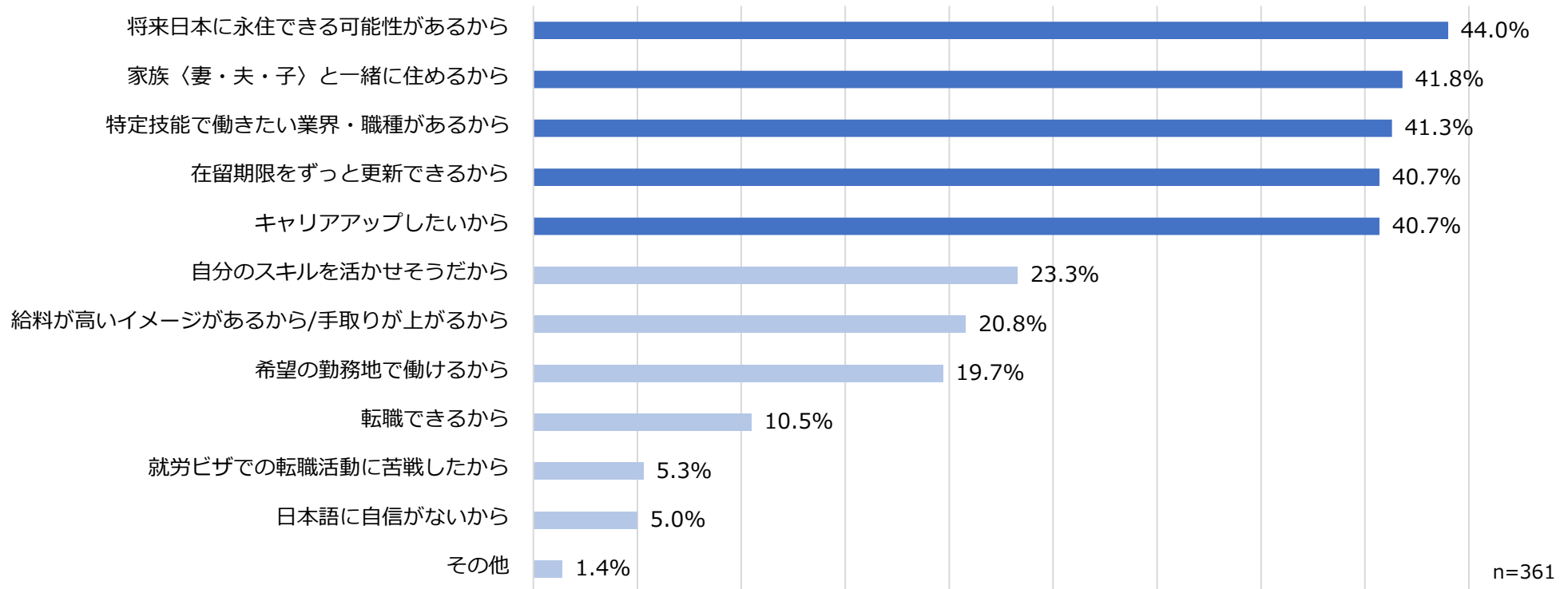
在留資格別 特定技能2号での就労意欲



※帰国予定者以外が回答

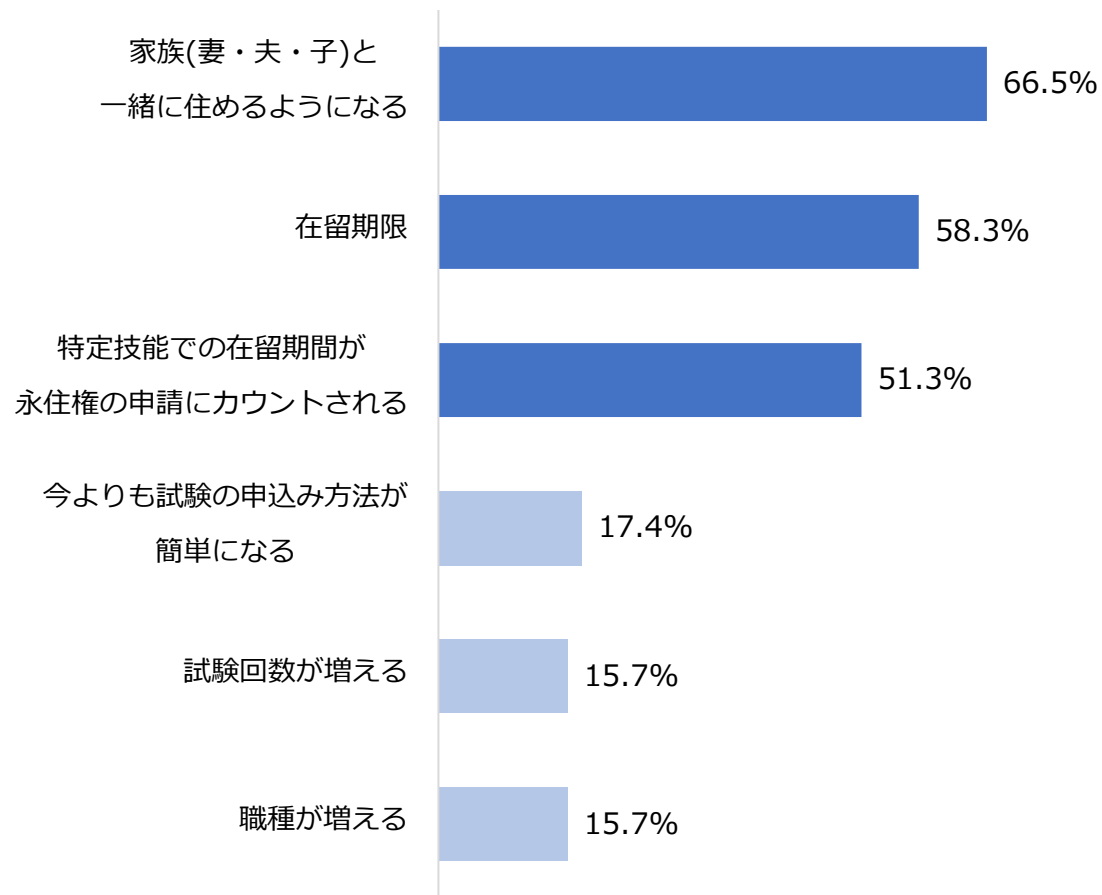
- ◆ 特定技能2号で働きたい理由は「永住できる可能性があること（44.0%）」が最も多く、次いで家族帯同が可能なこと（41.8%）や職種（41.3%）、在留期限（40.7%）、キャリアアップ（40.7%）と続いた。
- ◆ これらの結果は、2022年の当社の調査で特定技能制度への改善要望として家族帯同が可能となること・在留期限・在留期間が永住権の申請にカウントされることをあげる割合が高かったことと一致する。これらは2号では解消されるため、2号の制度内容は外国人材のニーズに対応していることが示唆される。

特定技能2号で働きたい理由（複数回答可）



特定技能1号への改善要望(複数回答可) 2022年調査

※n=230

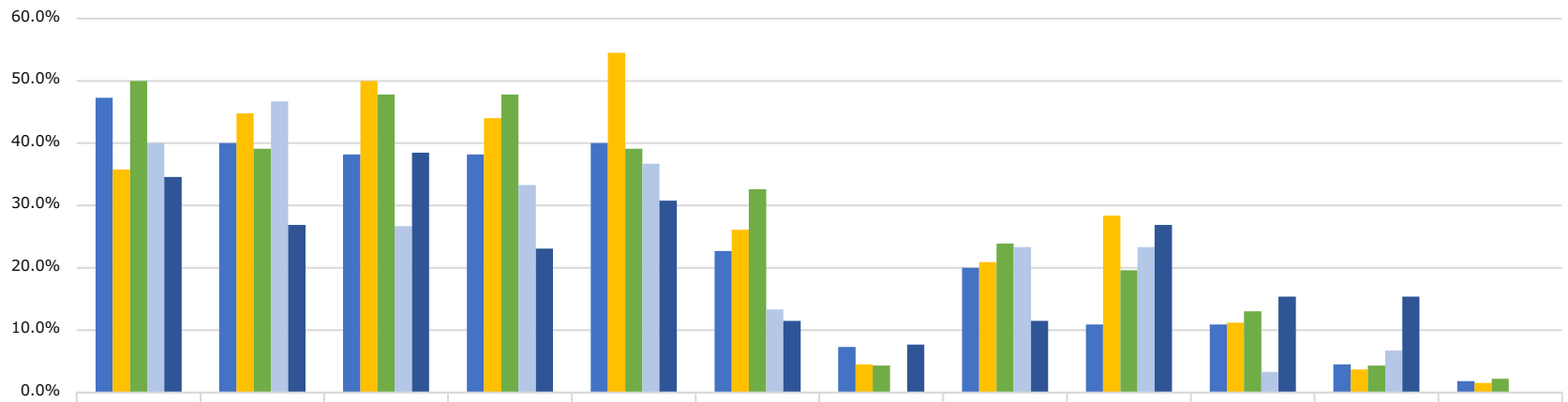


※マイナビグローバル「日本在住外国人の特定技能・日本での就労意識に対する調査結果(2022年)」

特定技能2号で働きたい理由

- ◆ 現在特定技能の外国人材が2号での就労を希望する理由は、将来的に日本に永住する可能性があること（54.4%）、家族帯同が可能なこと（50.0%）、キャリアアップの機会（44.8%）、そして在留期限を更新し続けることができること（44.0%）であった。

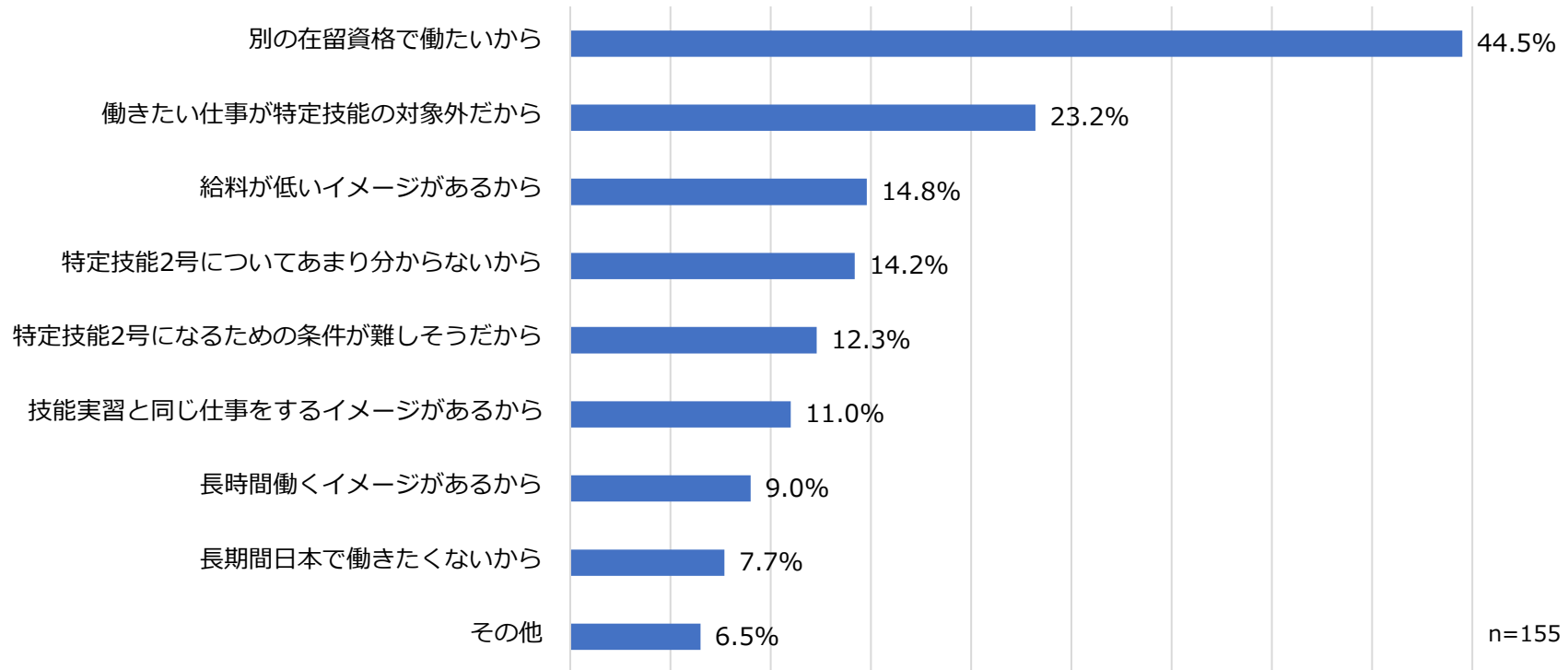
在留資格別 特定技能2号で働きたい理由



	特定技能で働きたい業界・職種があるから	キャリアアップしたいから	家族と一緒に住めるから	在留期限をずっと更新できるから	将来日本に永住できる可能性があるから	自分のスキルを活かせそうだから	日本語に自信がないから	希望の勤務地で働けるから	給料が高いイメージがあるから／手取りが上がるから	転職できるから	就労ビザでの転職活動に苦戦したから	その他
留学	47.3%	40.0%	38.2%	38.2%	40.0%	22.7%	7.3%	20.0%	10.9%	10.9%	4.5%	1.8%
特定技能	35.8%	44.8%	50.0%	44.0%	54.5%	26.1%	4.5%	20.9%	28.4%	11.2%	3.7%	1.5%
技能実習	50.0%	39.1%	47.8%	47.8%	39.1%	32.6%	4.3%	23.9%	19.6%	13.0%	4.3%	2.2%
特定活動	40.0%	46.7%	26.7%	33.3%	36.7%	13.3%	0.0%	23.3%	23.3%	3.3%	6.7%	0.0%
技術・人文知識・国際業務	34.6%	26.9%	38.5%	23.1%	30.8%	11.5%	7.7%	11.5%	26.9%	15.4%	15.4%	0.0%

- ◆ 特定技能2号で働きたくない理由は「別の在留資格で働きたいから」が最も多く、特定技能1号で働きたくない理由と一致する。

特定技能2号で働きたくない理由（複数回答可）

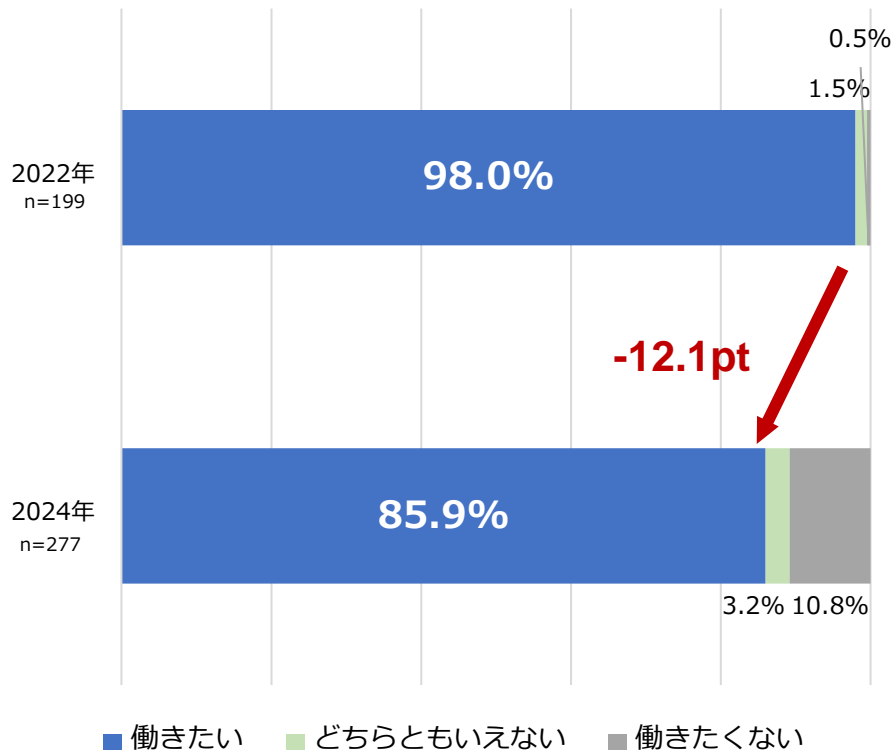




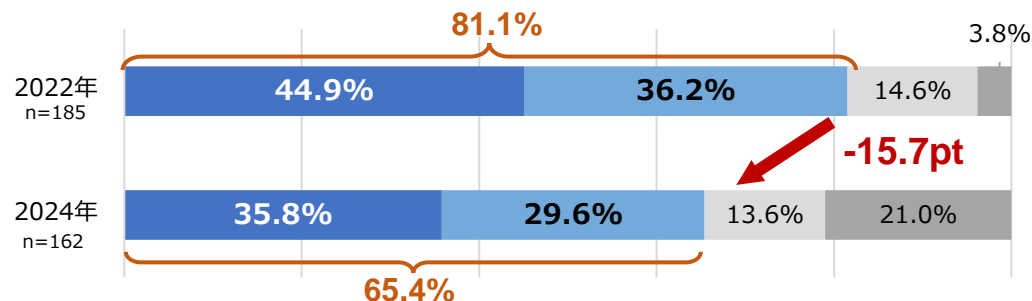
国籍別の傾向

◆ 2022年の調査と比較し、ベトナム人材は日本での就労意欲が12.1pt減少、特定技能1号での就労意欲は15.7pt減少し、特定技能の認知度も7.1pt減少した。日本での就労意欲が低下し、特定技能への関心度も低下していることが示された。

日本での就労意欲 (ベトナム)



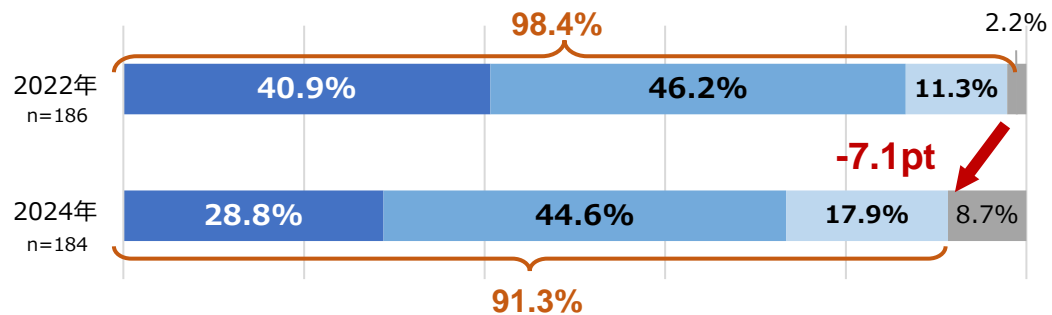
「特定技能1号」での就労意欲 (ベトナム)



■ 特定技能で働きたいと強く考えている ■ 特定技能で働きたいと少し考えている
 ■ できれば特定技能では働きたくない ■ まったく考えていない

※現在特定技能の人・帰国予定者以外が回答

特定技能の認知度 (ベトナム)



■ 知っている、よく理解している ■ 知っている、ある程度理解している

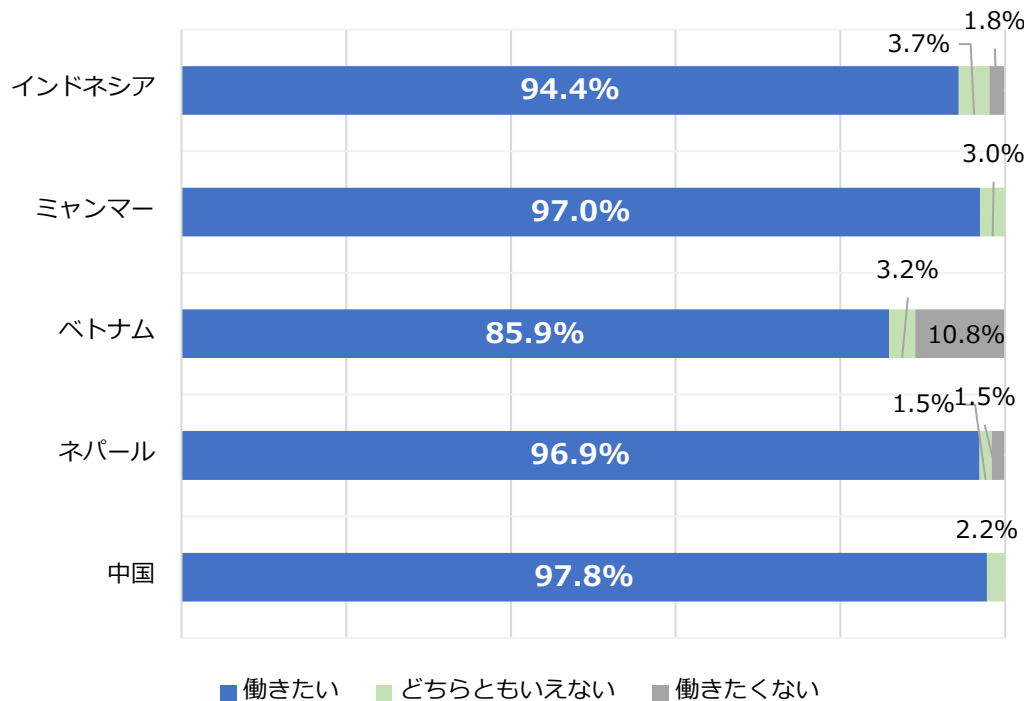
■ 知っているが、あまり理解していない ■ まったく知らない ※現在特定技能の人以外が回答

◆ 日本での就労意欲はインドネシア人材は94.4%、ミャンマー人材は97.0%であった。また、この2カ国は特定技能の認知度も高く（インドネシア：97.8%、ミャンマー95.2%）、出入国在留管理庁が出している特定技能の在留数※の増加率が高い上位2カ国と一致する。

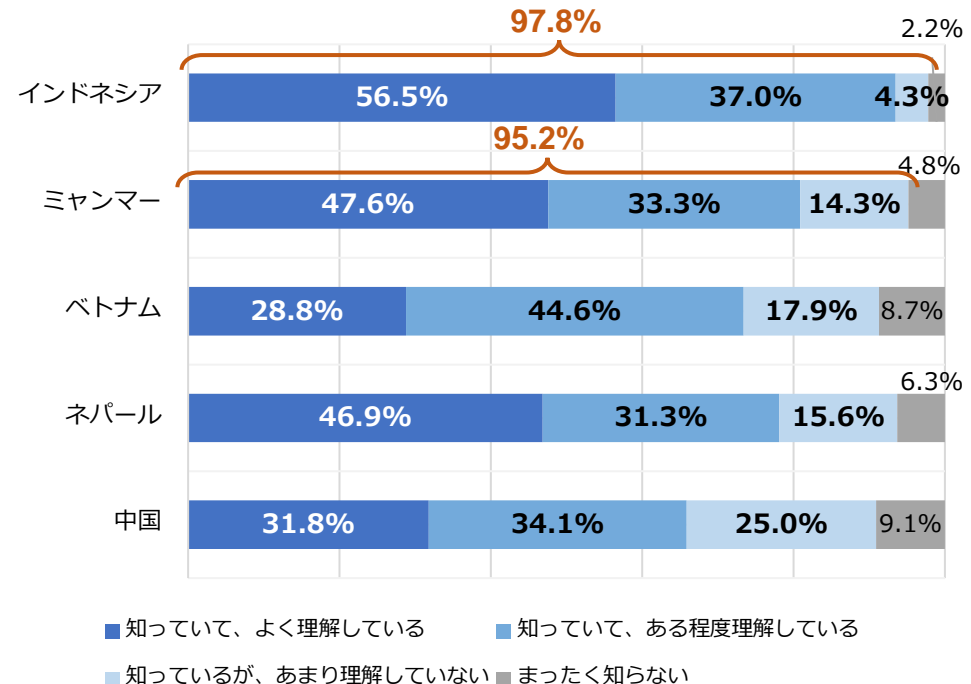
◆ インドネシア・ミャンマーは就職先を選ぶ際に人間関係を重視する割合が他よりも高いという特徴もみられた。

※出入国在留管理庁「特定技能在留外国人数の公表等」

国籍別 日本での就労意欲

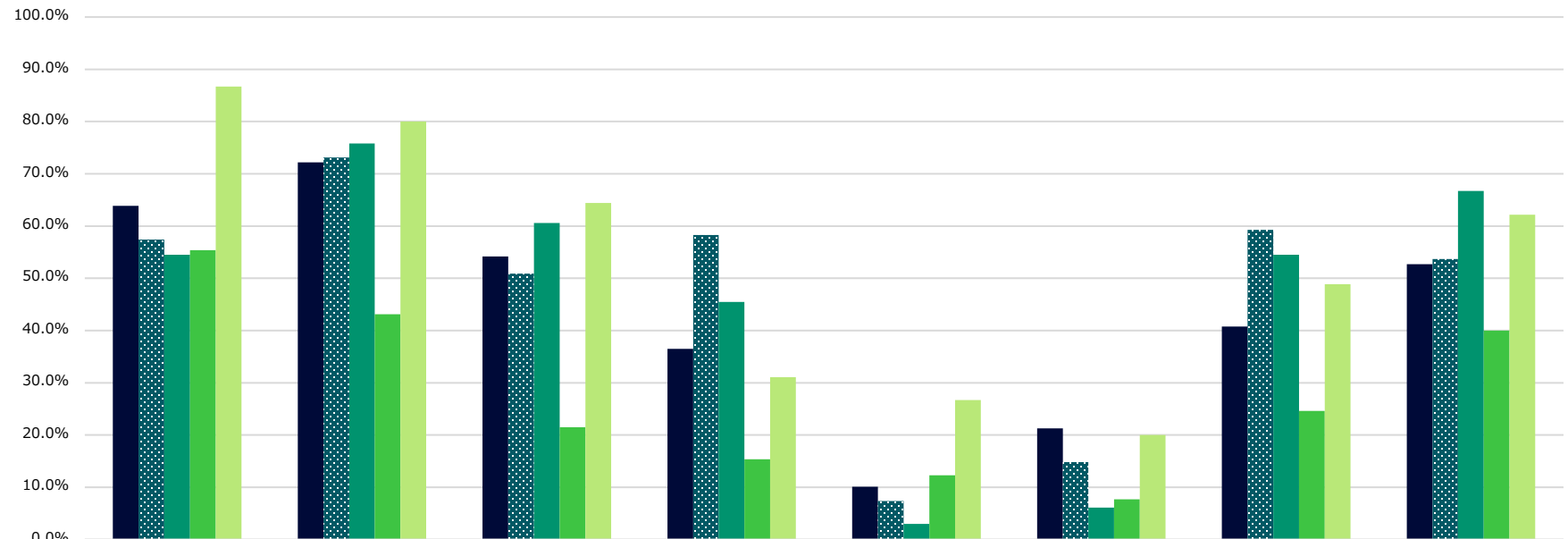


国籍別 特定技能の認知度



※現在特定技能の人以外が回答

国籍別 就職先を選ぶ時に重視するポイント



国籍	仕事内容・職種	給料（ボーナス含む）	勤務地（エリア）	寮がある・住宅手当がある	残業が少ない	就職先が業界トップクラスである	社員の人間関係が良い	自分が成長できる環境がある
■ ベトナム	63.9%	72.2%	54.2%	36.5%	10.1%	21.3%	40.8%	52.7%
■ インドネシア	57.4%	73.1%	50.9%	58.3%	7.4%	14.8%	59.3%	53.7%
■ ミャンマー	54.5%	75.8%	60.6%	45.5%	3.0%	6.1%	54.5%	66.7%
■ ネパール	55.4%	43.1%	21.5%	15.4%	12.3%	7.7%	24.6%	40.0%
■ 中国	86.7%	80.0%	64.4%	31.1%	26.7%	20.0%	48.9%	62.2%

本資料に関するお問い合わせ

株式会社マイナビグローバル

PR企画課

m-g-l.pr@mynavi.jp

03-6267-4395

本資料の著作権は当社に帰属します。

そのため、本資料に掲載のデータ・図版等の無断転載を禁じます。

転用・引用やご質問等に関しては、上記までご連絡ください。